



イメージキャラクター
ナラシド

地方創生加速化交付金事業の 実施報告及び効果検証（案）

平成29年11月21日(火)

習志野市公共施設再生推進審議会

習志野市 政策経営部 資産管理室 資産管理課

平成27年度国の補正予算により
「地方創生加速化交付金」（国10/10交付）が創設



当交付金を活用して、本市における大きな課題であり、
今後着実に前に進んでいく必要のある
「老朽化した公共施設の再生」に関わる事業を
平成28年度に実施



外部組織による事業の効果検証が必要



習志野市公共施設再生推進審議会において
事業の実施報告と効果検証を行うもの

2. 実施事業

区分（交付金額）		内 容
大久保地区公共施設再生事業（再生施設）	P F I アドバイザー委託 (22,000,000円)	本事業をP F Iにより実施するに当たって、募集要項・要求水準書・評価基準の作成、事業者の評価及び選定、契約締結等の支援業務を委託。
	市民P R業務 (1,989,468円)	平成27年度に作成した「よくわかる！習志野市公共施設再生計画」のチラシについて、事業の進捗に合わせ更新。
		本事業の対象施設である大久保公民館等で市民活動の軌跡を刻んだ場所を記録として保存し、市民とともに生涯学習を通じて市民協働を進めてきた歩みを未来に残すために、「習志野市大久保地区公共施設をあゆむ」を作成。
		将来的に本事業で実施するフューチャーセンターをはじめ市民参加につなげていくために、今から少しずつ市民の関心を掘り起こし、人と人とのつながりをつくっていくイベントとして「ならしのスタディーズ」開催。
大久保地区公共施設再生事業（集約対象施設）	利活用検討業務 (4,946,400円)	「施設跡に新たな税財源の投入を行わず、地域コミュニティの担い手となる人や企業が活躍できる場をつくる」という方針に基づき、閉館予定である4つの公共施設の新たな利活用モデルを検討。
	アンケート調査 (1,000,000円)	平成27年度に実施した市民ワークショップの結果を元に、さらに広く市民の意見を確認するため、対象施設周辺在住の方を対象にアンケート調査を実施
袖ヶ浦地域活性化 (800,000円)		千葉工業大学、独立行政法人都市再生機構、習志野市の三者による袖ヶ浦団地活性化プロジェクトのもと、袖ヶ浦団地でのイベント開催、大学生が実際に袖ヶ浦団地に住み地域の行事への参加などを実施
(交付金額計 30,735,868円)		

指 標	設定理由
プラットフォームへの市内企業参加	公共施設の再生にあたっては民間活力の導入が必要であり、特に地域経済の循環及び地域力の向上の観点から地域の事業者の参加が必要であるため。
若者・子育て世代のまちづくり参加（20代、30代、40代）	公共施設の再生をひとつのきっかけとして、現状どうしても少なくなりがちな若者・子育て世代のまちづくりへの参加を促すことによって、将来的にみんなが参加し話し合いながら自らのまちを良くしていくことにつなげていくため。
統廃合施設跡での民間事業に関心のある事業者数	今後統廃合施設跡の利活用など公共をみんなで作っていくためには、公共の担い手となる民間事業者の裾野を広げていく必要があるため。
袖ヶ浦団地シェアハウス型学生寮における学生居住者数	大学生が実際に団地に居住することによって、地域の一員として地域イベントに参加し、地域の活性化につなげていくため。

指 標	指標値	実績値
プラットフォームへの市内企業参加数	25社	35社
若者・子育て世代のまちづくり参画 （20代、30代、40代）	44%	59%
統廃合施設跡での民間事業に関 心のある事業者数	5 社	5 社
袖ヶ浦団地シェアハウス型学生寮に おける学生居住者数	9 名	9 名

5. 定性的効果、今後の展開

区 分		効果（定性的）	今後の展開
大久保地区公共施設再生事業（再生施設）	P F I アドバイザー委託	PFI事業者の募集及び契約締結を行うことにより、本市が全国的に先駆けて取り組んでいる公共施設再生の <u>モデル事業を着実に進めることができた。</u>	平成29年度に設計を行い、平成30年度から工事に着手していく（平成31年11月オープン予定）。
	市民 P R 業務	本事業をより多くの市民に周知し、 <u>市民参加を促すことができた。</u> 特にならしのスタディーズという新たな市民参加の場を設置することができた。	作成したチラシ等を活用し、更なる市民 P R 及び市民参加に努める。
大久保地区公共施設再生事業（集約対象施設）	利活用検討業務	アンケートによる市民の意向の確認、民間事業者の視点からの利活用モデルの提示など、 <u>更に具体的な検討を進めることができた。</u>	地域への説明や民間事業者との対話等を行い、基本的な考え方をまとめた基本構想を策定していく。
	アンケート調査		
袖ヶ浦地域活性化		千葉工業大学及び独立行政法人都市再生機構（UR）と連携を図り、夏と秋に袖ヶ浦団地でイベントを開催することで <u>地域住民の理解を得ることができた。</u> また、大学生がライフスタイルに合うよう部屋のリニューアルを行い袖ヶ浦団地に住み始めるとともに、地域の行事に参加することにより <u>地域の活性化に寄与することができた。</u>	引き続き千葉工業大学及びURと連携を図り、より多くの学生の参加を得て、これまでの活動を継続しつつ、地域の活性化につなげていく。



成果物

検証

KPI達成度

+

定性的効果

交付金が後押しとなって、本市の大きな課題である
老朽化した公共施設の再生に向けて、
具体的な取組を前に進めることができた。

一方、本市として前例の少ない新しい取組であることから、
マンパワー、関係者との調整や合意形成等に課題。

今後の方針

一歩ずつ着実に推進。
公共施設再生をきっかけに
地域全体のまちづくりへとつなげていく。